

# ritokey

## 2022-2023

ritokey Annual Report 2022



NPO法人離島経済新聞社  
2022年度年次報告書

島の宝を未来につなぐ

 離島経済新聞社



## 島で生きる人、島を想う人と共に 泣き、笑いながら島の宝を未来につなぎたい

2022年は長く続いたコロナ禍が終わりに近づき、人の動きが戻ってきました。NPOリトケイの活動も、島での取材や調査、産業振興や環境保全活動サポート、島と人をつなぐ交流事業や教育事業などで、画面越しではないリアルなコミュニケーションが復活しました。

2020年から続くコロナ禍により、あらゆる地域のあらゆる場面でオンライン化が進みました。オンラインで会議できれば、交通費や時間が大幅に削減でき、多様な人が一堂に介することも簡単。そんなオンライン化の進展は、島にとってもリトケイにとってもありがたいものでした。

反対に、オンライン化できないことも見えてきました。島の皆さんとのコミュニケーションはリアルが重要。『季刊ritokei』38号「つよくやさしく たのしい地域共同体に学ぶ 島のシマ」vol.38（2022年5月発行）で取材した、人口60の六連島（山口県下関市）の方々は「関係人口ではなく信頼人口」を大事にしており、同特集でインタビューに応じてくださった京都大学元総長の山際寿一先生は「信頼は時間の関数」だと教えてくれました。

リトケイのミッションは「島の宝を未来につなぐ」ことです。島の宝とは、島の資源から生まれる産品だけでなく、自然や文化、人々の共生社会など、人々が愛しく大切に感じているもの。それらを未来につなぐ活動には、島の方々との意思疎通や連携が欠かせません。

信頼関係が結ばれないまま「地域振興になるから」「島のためになるから」という言葉だけで、島の人とつながり、連携することは簡単ではありません。カタチとして連携できたとしても、

本当の悩みや夢が欠け落ちたプロジェクトは一時的なもので終わってしまい、かえって島の方々を疲弊させてしまうことさえあります。

リトケイはそうした苦い経験も有しています。そんな時、何よりありがたいのは島の方々から直接、叱咤激励をいただける組織であること。島で生きる人、島を想う人など、さまざまな人と泣き、笑いながら成長できたおかげで、今のリトケイがあります。

リトケイでは、島におじゃましてお酒を酌み交わす時間を大切にしています。山極先生はそれを「お茶を飲んだり、お酒を飲んだり、食事をしたりするの、お互いが平和であることを確認をする、あるいは親密であることを確認することの儀式」と言い、信頼関係を築くために必要な時間であるとおっしゃいました。

活動開始から13年が経ち、離島地域に特化した民間団体として評価いただくことも増えました。まだまだ小さな組織ですが、これまでに築いてきた関係を資本に、島の宝を未来につないでいける組織になりたいと考えています。

コロナ禍のなか、リトケイは組織体制を強化し、多様な連携を図れるベースを整えました。そして迎えた2023年度は新たなチャレンジも始めています。この活動を継続できるのは共にリトケイを育ててくださっている皆さまからのご支援のおかげです。この場を借りて厚く御礼申し上げます。この活動報告書では、2022年度の活動報告や、会計報告を紹介しております。島の方々と同様、皆様からも叱咤激励をいただき、ますます成長していきたいと考えております。お目通しいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

2023年9月吉日

NPO法人離島経済新聞社一同

## 伝える事業

離島情報の認知を目指す情報媒体の発行事業の報告

### 有人離島メディア『ritokey』の発行

有人離島専門メディア『ritokey』（ウェブサイト版・フリーペーパー版）を発行する「伝える事業」では、島在住のライター・編集者たちと連携し、「つよくやさしくたのしい地域共同体に学ぶ島のシマ」「島だから学べること」「島に生きる言葉100」「きれいな島をいつまでもごみについて考えよう」特集の4号分を発行。ウェブ版

『ritokey』では、離島留学情報をはじめ、島の魅力や課題を伝えるニュースや寄稿連載などを公開しました。島の小中学校・高校をはじめ、都市部の高校や大学など教育機関での配布も増えており、日本の未来を担う若者にも「島が持つ価値や魅力」「島が抱える課題や解決のヒント」を届けています。

### 2022年度に発行した『季刊ritokey』



「きれいな島をいつまでもごみについて考えよう」vol.41（2023年2月発行）

- いつから増えたの？「島のごみ」（竹富島、沖永良部島、知夫里島）
- そもそも「捨てない」社会を作るには？島も、ごみも、世界も救う循環経済とは（環境博士 大岩根尚さん、ECOMMIT 川野輝之さん）
- 「ごみを出さない」ゼロ・ウェイスト推進中（石垣島 ユーグレナガーデン、屋久島 aperuy）
- 日本一多くのごみが集まる島の挑戦 ごみゼロアイランド対馬宣言（対馬島）
- 小さな島の海洋ごみ問題 101島+10地域調査で見てきたこと（飛島、網地島、菅島、千振島、魚島、高井神島、浮島、地島、高島、野甫島・伊平屋島） ほか



「島で生きる言葉100」vol.40（2022年12月発行）

- 私も、島人です（吉田栄作さん、もたいまさこさんほか）
- 島を愛する人と生きる（元ちとせさん、ベベンコビッチさんほか）
- 島の上で生きる（石垣昭子さん、新元一文さんほか）
- 島という希望（長嶋俊介さん、養老孟司さんほか）
- 未来に向けて（魚谷孝之さん、黒島慶子さんほか）
- インタビュー「戻れない島の豊かな記憶を追いかけて」滝口悠生さん ほか



「島だから学べること」vol.39（2022年11月発行）

- 9泊10日の島暮らしで学ぶ「生きること」への気づき
- 働き、暮らしながら島で学ぶ「大人の島留学」とは？
- 学びの最前線。隠岐島前にみる「問い」というキーワード（海士町 大野佳祐さん）
- 島に学ぶ先生と先生に学ぶ島人の化学反応（前編・後編）（沖永良部島在住 東北大学名誉教授 石田秀輝さん、株式会社オールディビレッジ 古村英次郎さん、一般社団法人UP HOME WORKS代表理事・酔庵塾事務局長 竿智之さん、リトケイ編集長 鯨本あつこ）
- 手に負えない自然のなかで知識が知恵に代わる学びを ほか



「つよくやさしく たのしい地域共同体に学ぶ島のシマ」vol.38（2022年5月発行）

- シマをめぐる島ラジオ あまみエフエムが見た奄美のシマ（あまみエフエム）
- ゴリラと屋久島に学ぶシマと島の可能性（霊長類学者・人類学者 山極壽一さん）前編・後編
- 山際先生も通う口永良部島で商店を始めた夫婦の話（口永良部島 貴船 森さん）
- つよくやさしく たのしい3島のシマ（道後 西郷中町・阿多田島・津堅島の皆さん）
- 島に暮らす読者に聞きました シマを想う島の声（読者アンケート）
- 「信頼人口」の六連島で探す心豊かなシマづくりのヒント（六連島の皆さん）前編・後編
- おもしろい共同売店のあるシマはおもしろい（与那国島 比川共同売店） ほか



『ritokey』が2022年度に  
情報を届けた人の数

# 45万人以上

※ウェブサイトの年間訪問者数および  
フリーペーパーの発行部数の合計

2022年度に公開した  
ウェブ版『ritokey』の記事は  
約100本



## フリーペーパーの設置ポイント

2022年度もたくさんの施設にご協力いただき

**176島 本土201市区町村 1,254カ所**

に増加しました。※2022年9月現在



## 学校・教育関連施設へ『季刊ritokei』を提供

「島を知ることは日本を知ること。島国日本の未来を担う子どもたちへの教育活動に対して、有人離島専門フリーペーパー『季刊ritokei』を無償提供する活動を通じて、島内外の教育機関での「島を学ぶ」活動に活用いただいています。



2023年度に『ritokei』を届けた教育機関の数

**約800校**

写真は『季刊ritokei』を活用し、島を学ぶ筑波大学附属高校（東京都）の生徒たち

『季刊ritokei』を活用する学校・教育関連施設（2022年5月10日現在）

【北海道】【奥尻島】奥尻町立奥尻中学校【東京都】【千代田区】上智大学中央図書館【文京区】国立大学法人筑波大学附属高等学校【八王子市】創価大学中央図書館【伊豆大島】大島町立つつじ小学校【新島】新島村立新島小学校／新島村立新島中学校【式根島】新島村立式根島学園小学校・中学校【神津島】神津島村立神津中学校【御蔵島】御蔵島村立御蔵島小学校【八丈島】東京都立八丈高等学校／八丈町立大賀郷中学校【父島】東京都立小笠原高等学校【神奈川県】【横浜市】横浜市立東高等学校 図書館／神奈川県立横浜国際高等学校図書館【厚木市】神奈川県立厚木商業高等学校 図書館【新潟県】【佐渡島】新潟県立佐渡高等学校／新潟県立佐渡中等教育等学校／佐渡市立新穂中学校／新潟県佐渡市立佐和田中学校／佐渡市立内海府小学校【愛知県】【岡崎市】愛知学泉大学 入試広報室【佐久島】西尾市立佐久島小学校【三重県】【神島】鳥羽市立神島小・中学校【答志島】鳥羽市立答志中学校【京都府】【福知山市】福知山公立大学 地域経営学部 多自然圏活性化研究室【和歌山県】【和歌山市】和歌山大学 紀伊半島価値共創基幹 食農総合研究教育センター【島根県】【島後】島根県立隠岐高等学校 図書館【広島県】【向島】学校法人尾道学園 尾道中学校・高等学校【大崎上島】広島商船高等専門学校【山口県】【彦島】下関市立向井小学校【徳島県】【徳島市】徳島文理大学徳島キャンパス附属図書館【愛媛県】【弓削島】愛媛県立弓削高等学校【福岡県】【小呂島】福岡市立小呂小中学校【佐賀県】【加唐島】加唐小中学校【長崎県】【長崎市】長崎大学生協 医学部店／長崎大学生協 文教2階店【諫早市】鎮西学院長崎ウエスレヤン大学付属図書館【壱岐島】壱岐市立鯨伏小学校【宇久島】長崎県立宇久高等学校【大島（小値賀町）】小値賀町立小値賀小学校 大島分校【鹿児島県】【鹿児島市】鹿児島大学 水産学部【奄美大島】奄美市立市小中学校【与論島】与論町立与論中学校【沖縄県】【西原町】琉球大学 島嶼地域科学研究所【西表島】竹富町立白浜小学校



## 読者の声 ※一部抜粋

「無料設置ポイントとして、利用させていただいています。もっと、新聞のファンが増えるといいと思っています」

「日本の島々の情報をいつも楽しみに、そしていろんな島があり、島それぞれの課題があるんだと思い、拝読しております。何をどうすれば自分でも役に立てるかな、何かできれば良いなという気持ちが増します」

## 「応援しています」

「いつも色々な視点から島について書かれていて、すごく興味深く読んでいます!!」

「楽しく拝読しています。他の離島の状況を知る機会は少ないので、大変だと思いますがぜひ頑張ってください。規模は大きい方ですが、私も離島の現状を発信する仕事もしているので何かお手伝いできればと思います」

「困り事への様々な取組をみんなで作るきっかけづくりをおねがいします」

「いつも学び多く拝読させていただいております。丁寧な取材、時代を読んだトピック心から感謝いたします。これからも楽しみにしています」

「いつも素晴らしい視点で島を取り上げてくださり、楽しみにしています」

「いつも大変お世話になっております。島のごみ問題はどこも深刻だとは感じています。少しでも多くの方々に知って頂きたいですね。また改めてごみ問題について考える機会を下さってありがとうございます」

「これからも離島の為に情報発信よろしくお祈いします」

「島暮らしのおりは、素敵な表紙を見るのが好きでした。島を離れて最近は見れないのですが、また島に戻った時、手に取るのを楽しみにしています」

「他の島の同世代の人と交流できる機会があったらな、と思います」

「素敵な離島の取組をたくさん紹介して欲しい」

「いつも楽しみに拝見しております。私に何か協力できることがあったら、出来る限り協力します」

「『季刊ritokei』 毎号楽しみにしています。これからもいまの調子で!」

「これからも情報発信を楽しみにしています」

## つなぐ事業

有人離島地域の課題解決に寄与する交流サポート事業の報告

### 島・人・未来がつながる機会を創出

「つなぐ事業」では、有人離島地域の課題解決や持続的発展を志す民間企業・団体・非営利団体等と連携した事業の企画やコーディネートを行なっています。2022年度は、ひとつの島だけでは解決の難しい課題をクリアするアイデアの創出や、企業が持つソリューションを課題解決に活かすためのマッチングサポート、移住定住・関係人口・産業の担い手となる人が島とつながる機会を創出しました。その一部を紹介します。

#### 人材育成



島の担い手となる子どもたちや若手人材に向けたライティング講座や、企業が無償提供する教育プログラムのコーディネート等を行いました。奄美大島では、進学や就職のため島を離れる高校生に向けて、アクサ生命が提供する金融経済教育講座を実施。全国の島の中学生が互いに交流できる「全国離島学校サミット」（企画・福岡市小呂小中学校）では参加校の調整や、授業の進行役を務めました。

人材育成プログラムを  
提供した地域数  
**5地域**

#### 企業と連携した関係人口創出支援



日本海に浮かぶ粟島の稀少農産物の生産拡大のため、カルビーが実施する「miino」粟島一人娘プロジェクトの企画推進において、現地コーディネートを実行。プロジェクトの概要や、粟島で開催される収穫ツアーの募集告知、開催レポートを『ritokey』各メディアより展開しました。

粟島の  
収穫イベントに  
応募した人数  
**約100人**

#### 産業振興の支援



島々が誇る「魚食」の普及PRに貢献すべく、関東圏の飲食店やプロの料理人と連携したレストランイベントを開催。他にも「離島の極上ダシを味わう旨味体験会」や、「離島のレア旨肴（おつまみ）を味わう 海の幸×島酒ペアリングの会」などのオンラインイベントを開催し、島ファンや魚食ファンの拡大に努めました。

「島の魚食」の魅力  
を体感した人の数  
**約1,000人**

#### 環境保全の支援



日本財団「海と日本PROJECT」と共同で、小規模離島地域における海洋ごみ問題の実態調査を実施。人口概ね500人未満の島々のうち有効回答のあった101島の結果から、人手不足や資金不足、島内で処理できないごみの搬出費用の問題等、多様な問題を調査しました。調査内容は『ritokey』各メディアやオンラインイベントより報告。小規模離島の海ごみ問題の解決に興味を寄せる関心層が意見交換を行えるSNSコミュニティも立ち上げました。

同企画を通じて  
島の海ごみ問題を  
知った人の数  
**15万人  
以上**

#### 交流学習の支援



福岡市の離島・小呂島の発案でスタートした島の中学生が合同で学ぶ「全国離島学校サミット」の運営をサポート。参加校のコーディネートや交流事業での司会を担当。初年度は、小呂中学校、佐渡市立新穂中学校（佐渡島）、鳥羽市立神島中学校（神島）、宇検村立安室中学校（奄美大島）の4校で全3回の交流学習を行いました。

同企画で交流した  
島の中学校  
**4校**

## 育む事業

### 有人離島の振興に寄与するサポート事業の報告

#### 島の市町村と連携した支援事業を展開

「育む事業」では、有人離島地域を有する地方自治体や関係省庁と連携し、島々の持続的な振興につながる事業のサポートを実施。令和5年11月には包括連携協定を締結した知名町（沖永良部島／鹿児島県）での活動をはじめ、島の子どもたちに向けた教育プログラムの提供（利尻島／北海道）や、サステナブルな観光を追求する石垣市（石垣島／沖縄県）など、島の市町村と連携した各種支援事業を展開しました。

#### 関係人口と地域の担い手獲得のための広域連携事業（知名町）



鹿児島県知名町（沖永良部島）の各産業の担い手獲得を図る上で重要となる、島外人材と町内事業者との連携や、島外人材の住宅確保における情報集約・空き家の利活用等を一体的に進めていくための広域連携事業を担当。繁忙期が異なる北海道利尻町と連携し、担い手獲得・育成施策を推進しました。

現在進行中  
のため  
実績値は  
次年度に報告

#### 東京島嶼地域のブランド化支援業務委託（東京都）



東京島嶼地域にある11島のブランド化・高付加価値化を目的に、東京の島々が持つ自然景観や特産品、文化などに更なる磨きをかけ、広く発信することを目的とした、東京都「島しょ地域のブランド化支援業務委託」において、過去3年間を通じて磨き上げたブランドコンセプトに基づいたアクションプラン、プロモーション企画の運営サポート、現地での議論の場の運営などを担当しました。

サポートを  
担当した島数  
1島

#### ふるさとラーニング推進事業 ※うみやまかわ新聞作成（利尻町）



小学生を対象としたメディア制作プログラムを北海道・利尻町で展開。課題解決型の授業プログラムによる「考える力」「実践力」の育成や、取材や新聞制作を通じて地域の人・自然・産業に触れ、地域の成り立ち・価値を理解する体験型学習、同世代の他地域児童との交流体験の創出（東京都利島村との交流体験）などを提供しました。

参加児童人数  
13人

#### サテライトオフィス誘致に向けたPR企画（知名町）



持続可能な島づくりに貢献できるよう、2022年11月に包括連携協定を締結した奄美群島・沖永良部島の知名町に誕生したサテライトオフィスへの入居者募集に向けたPR企画を担当。『ritohei』フリーペーパーおよびウェブメディアに、知名町の魅力を7つのポイントと物件案内を掲載したほか、オンライン上で内覧ができる動画配信を行いました。

サテライトオフィスの  
成約件数  
5件中5件

#### サステナブルを追求する離島観光のPRおよびイベント企画（石垣市）



石垣島が展望するサステナ島旅（持続可能な観光）の、現在地と展望を語りあうトークイベント「石垣島はこう目指す。島人も旅人もうれしいサステナ島旅」（主催・石垣市）を企画・開催。石垣市中山市長、ANAホールディングス、ユエグレナなどをゲストに、「東京ミッドタウン八重洲」からの生配信を行いました。

視聴人数  
400人以上

## 2022年度 財務報告

### ▼活動計算書

科目	
I 経常利益	
受取寄付金・サポーター会費	2,746,500
受取助成金	11,860,000
事業収益	48,719,754
その他収益	0
経常収益計	63,326,254
II 経常費用	
事業費	55,953,912
管理費	13,238,171
経常費用計	69,192,083
当期経常増減額	-5,865,829
III 経常外収益	
経常外収益計	1,509,639
IV 経常外費用	
経常外費用計	7,577,193
当期正味財産増減額	-14,783,210
前期繰越正味財産額	-12,204,127
次期繰越正味財産額	-26,987,337

### ▼貸借対照表

科目	
I 資産の部	
流動資産	12,193,372
固定資産	76,300
資産合計	12,269,672
II 負債の部	
流動負債	15,714,493
固定負債	23,139,000
負債合計	38,853,493
III 正味財産の部	
正味財産の合計	-26,583,821
負債及び正味財産合計	-26,987,337

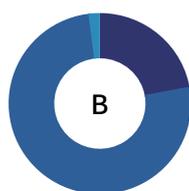
数字は2023年3月31日時点。会計処理および開示方法についてはNPO会計基準に従っております。離島経済新聞社では経営の透明化を高めるため、団体ホームページ（[www.ritokei.org](http://www.ritokei.org)）にて財務情報の詳細を公開しています

### 非営利活動の内訳（A）



- (1) 有人離島地域の持続に寄与する情報発信事業 22%
- (2) 有人離島地域の課題解決に寄与する交流サポート事業 38%
- (3) 有人離島の振興に寄与するサポート事業 39%
- (4) その他目的を達成するために必要な事業 1%

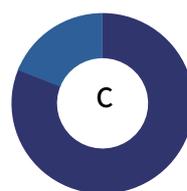
2022年度は定款で定める4事業を推進。『季刊ritokei』の発行等にかかるメディア事業が約2割。島と人をつなぐ交流事業や教育事業、地域振興事業などが約8割を占めます。



### 収益の内訳（B）

- 寄付/会費/助成金 22%
- 事業収益 76%
- その他収益 2%

収益の内訳では、寄付・会費・助成金が約2割。離島地域の市町村や都道府県、企業や団体との連携事業による「事業収益」が全体の8割を占めました。



### 事業費率（C）

- 事業費 80.5%
- 管理費 19.5%

経常費用のうち事業費は80%。事業費率90%前後を目安とした事業運営を目指していますが、2021年度に引き続き、組織基盤整備のための外部専門家を招聘等により管理費が増加しました。

## 2022年度決算について

2022年度はコロナ禍の影響が残るなか、過年度の損失をカバーする1年となりました。各事業は連携市町村からの委託事業や日本財団の助成事業により実行することができましたが、非営利メディアの運用コストは原材料や輸送費の高騰なども受け、寄付・サポーター会費だけで賄えない金額については、下半期に実行した金融機関（日本政策金融公庫）からの資金調達などにより財政安定化を図りました。固定負債が大幅にふくらむ結果となりましたが、寄付・サポーター会費は前年度に引き続き増加傾向にあり、新サービスの開発など多様な兆しを有していることから、引き続き、財政基盤の安定化を目指します。一方、非営利メディアの制作コストを賄い、未来世代の人材育成に力を入れるには活動費の増加が欠かせません。2023年度は寄付・サポーター・協賛の獲得キャンペーンも実行するなどファンドレイジングに力をいれ、より良い活動ができる財政基盤を整えて参ります。

リトケイを支えてくださっているサポーター企業・団体の皆さま (一部ご紹介※敬称略)

佐渡ホンダ販売株式会社

佐渡島のペーカリーカフェ

しまふうみ



Daiwa Lease  
大和リースグループ

島に寄り添い  
明るい未来へ

大和リース株式会社  
www.daiwalease.co.jp

日本の現場を元気にする職人



会社の現場監督

www.genba-kantoku.com

食べれる食器  
「イトレイ」で  
ゴミの削減に貢献



食品包装・工業包装・業務用品  
株式会社 折勝

島への引越し・車を送るなら



アイランデクス株式会社

コミュニケーションサイエンスで、  
幸せが循環する未来をつくる。



株式会社 朝日広告社  
https://www.asakonet.co.jp

## 2022年度の協業法人・地方公共団体一覧

知名町／新島村／利尻町／日本食研ホールディングス株式会社／  
プロモうるま・OTSサ研共同企業体／一般社団法人ツギノバ／  
日本財団／アイランデクス株式会社／株式会社マインドシェア／佐渡ホンダ販売株式会社／  
株式会社朝日広告社／株式会社パム・コークリエーション ほか

(一部ご紹介 ※順不同、敬称略)

## 2023年度計画と未来に向けて

NPOリトケイは2022年度も、島で生きる人や島を想う人と連携しながら数々の活動を実行することができました。年4回発行の『季刊ritokey』は、170島以上で配布されるフリーペーパーとして、共に島を支える方々が、先進地域の事例やヒント、アイデアや悩みを共有できる唯一無二のプラットフォームとして成長。リトケイには「島が好き」という声から「島に帰るためにがんばる」「明日もがんばろうと思った」という力強い声まで、幅広い声が届いています。このような声をいただけるリトケイを育て、リトケイを通じて島に貢献くださる皆さまに、心より感謝を申し上げます。

島で生きる人と島を想う人の願いを支えられるよう、リトケイはさまざまな活動ができる体制を整えて参りましたが、島と関わるリトケイの仕事には効率化できない工程も多く、財政基盤の弱さによる活動の限界が表面化しています。

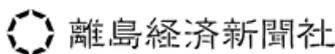
島々には多様な可能性がある一方、急激な人口減や気候変動等の影響から、無人化のリミットが迫る島も少なくありません。リトケイには実現したい事業がまだまだたくさんあり、そのためには十分な活動資金の確保が急務です。島には存在する持続可能な暮らしのヒントを島から世界につなげること。島の子育て環境を魅力化し、島というすばらしい環境下で育つ子どもや家族を増やすこと。島で暮らし続けたい人の願いを叶えるために必要なインフラを整えること。島の人の夢はリトケイの夢であり、その夢を実現できるよう、リトケイはもっと強くなりたいと考えています。

2024年度には認定NPOを目指し、2023年度はご支援を募るキャンペーンも実行する所存です。皆さまにおかれましては、引き続きリトケイを育て、共に島を支えてくださいますよう深くお願い申し上げます。



NPOリトケイ代表理事  
鯨本あつこ

島の宝を未来につなぐ



離島経済新聞社団体HP [www.ritokey.org](http://www.ritokey.org)  
有人離島専門メディア『ritokey』 [www.ritokey.com](http://www.ritokey.com)

団体名 特定非営利活動法人離島経済新聞社  
住所 〒155-0033 東京都世田谷区代田2-36-15  
TEL 050-3528-8392 (代表)  
E-mail [npo@ritokey.com](mailto:npo@ritokey.com)  
理事 鯨本あつこ (多和田温子) / 大久保昌宏 / 勝真一郎 / 望月洋佑 / 森健輔 / 上月温子  
監事 林信義 ※2023年8月1日時点